

講義要綱

【授業科目名】	薬理学	【分野】	基礎	【学年】	3年	【学期】	前期
【学科】専科	【講師名】大幡久之	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30	【単位数】	2
【一般目標:GIO】 薬がどのような経路で標的臓器に到達し、どのような分子にどのように作用して薬理作用を発現するか、および代表的な薬に関する幅広い知識を習得する。							
【行動目標・到達目標:SBO】 はり師、きゅう師として薬に対しての理解を持ち、患者への対応が出来るようになる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 薬物治療の目ざすもの 薬による病気の治療/薬としての基本的性質 2: 薬の使用目的 薬はどのように作用するのか/イオンチャンネルに作用する薬物 3: 薬の治療域と作用点/薬は受容体に到達してはじめて作用を発揮する。アドレナリン受容体・ニコチン受容体 4: 酵素に働くことで効果を示す薬/その他のしくみで効果を示す薬/薬の投与経路 5: 吸収/分布/代謝/排池/生物学的半減期/TDM 6: 薬効に影響を与える因子 年齢/遺伝的形質/薬物アレルギー/反復投与/薬物相互作用 7: 反復投与による薬効への影響 薬剤耐性、薬物依存/薬物相互作用 薬物効能学的相互作用、薬力学的相互作用 8: 薬物中毒はなぜおこるのか 過量によりおこる背景/有益性と、有毒性/臓器特有の有害作用/事例にみる薬物中毒 9: 薬の管理と新薬の誕生 管理に注意を要する医薬品/新薬の開発、医薬品情報の入手 10: 各論、抗感染症薬 抗菌作用のしくみ/抗菌スペクトル/薬剤耐性/各論 11: 抗がん薬 抗がん作用のしくみ、薬剤耐性、免疫治療、抗アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬、抗炎症薬、副腎皮質ステロイド薬 12: 末梢神経系に作用する薬物 筋弛緩薬、局所麻酔薬 13: 自律神経系作用薬各論 中枢神経作用薬 総論 14: 催眠薬 抗不安剤、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、麻薬性鎮痛薬 15: 試験問題解説および総復習							
【テキスト】 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(2)薬理学							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 なし							

講義要綱

【授業科目名】	栄養学	【分野】	基礎	【学年】	3年	【学期】	前期
【学科】専科	【講師名】鈴木ルミ子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30	【単位数】	2
【一般目標:GIO】 治療効果を高め、また患者の生活指導に役立つ栄養学について学ぶ。							
【行動目標・到達目標:SBO】 栄養学の知識を持ち患者の生活指導に役立てるようになる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 栄養学基礎 2: 五大栄養学と各食品の特徴① 3: 五大栄養学と各食品の特徴② 4: 五大栄養学と各食品の特徴③ 5: 五大栄養学と各食品の特徴④ 6: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 7: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 8: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 9: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 10: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 11: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 12: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 13: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 14: 栄養学まとめ 15: 試験問題解説							
【テキスト】 プリント 参考書:東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学」「生理学」「臨床医学各論」							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし							

講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅰ(解剖学Ⅳ)		【分野】専門基礎	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】高山 智仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 人体構造の系統を関連付け局所ごとに理解し、国家試験を見据えてその対策を行う。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 再び系統ごとに復習・理解を深め解剖学の知識をもつことができる。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >		< 後 期 >		
1. 人体の構成の復習① 2. 人体の構成の復習② 3. 神経系の復習① 4. 神経系の復習② 5. 神経系の復習③ 6. 神経系の復習④ 7. 骨格系の復習① 8. 骨格系の復習② 9. 筋肉系の復習①(体表解剖含む) 10. 筋肉系の復習②(体表解剖含む) 11. 筋肉系の復習③(体表解剖含む) 12. 筋肉系の復習④(体表解剖含む) 13. 消化器系の復習① 14. 消化器系の復習② 15. 試験解説および総復習		1. 循環器系の復習① 2. 循環器系の復習② 3. 感覚器系の復習① 4. 感覚器系の復習② 5. 感覚器系の復習③ 6. 内分泌系の復習① 7. 内分泌系の復習② 8. 泌尿器系の復習① 9. 泌尿器系の復習② 10. 生殖器系の復習① 11. 生殖器系の復習② 12. 呼吸器系の復習① 13.呼吸器系の復習② 14. 総復習 15. 試験解説および総復習		
【テキスト】 「解剖学」(医歯薬出版社)河野邦雄ほか				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験の結果を加味して評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。				

講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅰ(運動学)		【分野】専門基礎	【学年】第3学年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】坂口雅明	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1
【一般目標:GIO】 身体の運動を力学、身体各部の構造、機能から学習し、運動学的機能を理解する。				
【行動目標・到達目標:SBO】 力学、解剖学、生理学等を応用し、運動学の基礎を理解、説明ができる。 身体各部位の運動学的機能から動作を理解することができる。 運動学を疾患と関連して考えることができる。				
【 授 業 計 画 】				
<前期>		<後期>		
1 関節運動と力学 2 姿勢 3 伝導路、反射と随意運動 ① 4 伝導路、反射と随意運動 ② 5 体幹、脊柱の機能 6 正常歩行と異常歩行 ① 7 正常歩行と異常歩行 ② 8 肩甲帯、肩の機能 ① 9 肩甲帯、肩の機能 ② 10 肘、前腕の機能 11 手と手指の機能 12 骨盤と股関節の機能 13 膝関節の機能 14 足部の機能 15 総評と試験解説				
【テキスト】 「リハビリテーション医学 第3版」東洋療法学校協会編（医歯薬出版）				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 授業はスライド(PowerPoint)を使用して行うため、プロジェクターを毎授業用意すること。 授業内容により、骨模型を使用するため、準備を要する。(事前通告あり)				

2019年度

講義要綱

【授業科目名】臨床医学総論Ⅱ	【分野】専門基礎	【学年】3年	【学期】後期	
【学科】専科	【講師名】上杉健二	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1
【一般目標:GIO】 各検査、診察所見から推察し、適切に病態把握できることを目標とする。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 検査法の種類と特性についての意義を学び、そこから疾患を推察することができる。				
【 授 業 計 画 】				
< 前 期 >	< 後 期 >			
	<ol style="list-style-type: none">1. 第9章 一般検査(尿検査)2. 第9章 一般検査(便検査、血沈)3. 第9章 一般検査(血液検査)4. 第9章 血液生化学検査5. 第9章 生理学的検査及び画像診断6. 第9章 復習7. 第10章 主な症状の診察 〈頭痛、顔面痛、めまい〉8. 第10章 主な症状の診察 〈耳鳴り、難聴、息切れ、胸痛〉9. 第10章 主な症状の診察 〈腹痛、浮腫〉10. 第10章 主な症状の診察 〈ショック、意識障害〉11. 第10章 主な症状の診察 〈第10章 復習〉12. 第11章 治療学13. 第12章 臨床心理14. 総復習15. 試験問題の解説及び総復習			
【テキスト】 配布プリント テキスト:「臨床医学総論」東洋療法学校協会編(医歯薬出版)				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 パソコン、プロジェクターを使用するので準備すること。				

講義要綱

【授業科目名】臨床医学各論Ⅱ	【分野】専門基礎	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】谷 直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床において遭遇する可能性のある疾患について、適切な鑑別・評価が行え、あはき師として適切な判断と処置を行い、かつ患者に正しく適切な情報を提供し、施術者と患者がその行動理由を共有出来る。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 下記の疾患について概念・病態生理と主症状および特徴的検査法や治療について述べる事ができる。 下記の疾患についてあはき師として臨床上の判断を行うにあたりその留意すべき点を判断できる。 疾患に対する社会的背景等を理解し、疾病を有する者に対し適切な言葉を選択して表現することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 第5章 腎・尿器疾患 感染症	2 第5章 腎・尿器疾患 腫瘍性疾患	3 第5章 腎・尿器疾患 結石症・前立腺疾患	4 第6章 内分泌疾患 下垂体疾患①
5 第6章 内分泌疾患 下垂体疾患②	6 第6章 内分泌疾患 甲状腺疾患	7 第6章 内分泌疾患 副腎皮質疾患	8 第7章 代謝・栄養疾患 糖代謝異常・脂質代謝異常
9 第7章 代謝・栄養疾患 尿酸代謝異常・その他の代謝異常	10 第12章 リウマチ性疾患・膠原病 リウマチ性疾患	11 第12章 リウマチ性疾患・膠原病 膠原病①	12 第12章 リウマチ性疾患・膠原病 膠原病②
13 第11章 神経疾患 脳血管疾患	14 第11章 神経疾患 感染性疾患・脳脊髄疾患	15 試験問題の解説および総復習	
1 第11章 神経疾患 基底核変性疾患	2 第11章 神経疾患 その他の変性疾患	3 第11章 神経疾患 認知症(痴呆)性疾患	4 第11章 神経疾患 筋疾患・運動ニューロン疾患
5 第11章 神経疾患 末梢神経性疾患	6 第11章 神経疾患 末梢神経性疾患	7 第11章 神経疾患 神経痛・機能性疾患	8 第8章 整形外科疾患 総論・関節疾患
9 第8章 整形外科疾患 骨代謝性疾患・骨腫瘍	10 第8章 整形外科疾患 筋・腱疾患・形態異常	11 第8章 整形外科疾患 脊椎疾患	12 第13章 その他の領域 小児科疾患・一般外科
13 第13章 その他の領域 麻酔科・婦人科・皮膚科疾患	14 第13章 その他の領域 眼科・耳鼻科疾患・心療内科	15 試験問題の解説および総復習	
【テキスト】 テキスト:「臨床医学各論 第2版」東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書の通読を基本とし、教科書を通読・理解するにあたり必要な医学用語・知識を解説し、各疾患を理解する為の手がかりとする授業が目標とする。 基礎医学に関する知識が必要となる為、知識に乏しい者はあらかじめ予習しておくこと。			

講義要綱

【授業科目名】リハビリテーション医学	【分野】専門基礎	【学年】3年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】松村天裕	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 リハビリテーション医学や障害の概念、多様な障害の評価とそれに対応した治療方法・理論を学び、さらに適応となる主な疾患を通して詳しい知識を深め、実際の鍼灸臨床に役立てることを目標とする。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を適切に評価することができる。 ・ 障害やその評価に応じた治療、訓練が選択できる。 ・ 鍼灸臨床で遭遇する事が多い疾患に対し応用し実践することができる。 			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
リハビリテーションの概要 1. リハビリテーションの概要、沿革と理念 2. 障害とは何か、障害の分類 3. リハビリテーションの分野 4. 医学的リハビリテーションの概念ほか 5. 障害の評価① 6. 障害の評価② 7. 障害の評価③ 8. 障害の評価④ 9. 理学療法① 10. 理学療法② 11. 理学療法③ 12. 理学療法④、作業療法 13. 言語、義肢装具療法など① 14. 言語、義肢装具療法ほか② 15. 試験解説			
【テキスト】 テキスト:「リハビリテーション医学 第4版」東洋療法学校協会編（医歯薬出版） その他:授業ではテキストを補足するプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 参考図書:入門リハビリテーション医学 医歯薬出版 他			

講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅲ(はり・きゅう理論)	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】湯浅陽介	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 鍼灸の道具、施術の歴史的変遷を知る。鍼灸施術の有害事象と対処を理解する。 施術の意義、作用及び治効理論などについて学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼灸の道具、術式について説明できる。施術中に起こりうる有害事象に対し、予防、適切な対処ができるようになる。 鍼灸の治効機序について、生理学的な見地から説明できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 第9章 鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導① 2. 痛み感覚の受容と伝導② 3. 温度感覚の受容と伝導① 4. 温度感覚の受容と伝導② 5. 触圧刺激の受容と伝導① 6. 触圧刺激の受容と伝導② 7. 筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導① 8. 筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導② 9. 鍼灸刺激と反射 10. 鍼鎮痛 11. ゲートコントロール説 12. 刺激と反応 13. 第10章 鍼灸療法の一般治効理論 14. 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響 15. 試験解説および総復習		1. 生体防衛機構に及ぼす鍼灸刺激の影響 2. 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系 3. 第11章 関連学説 4. 第1章 概論 (鍼灸治療の意義、特徴) 5. 第2章 鍼の基礎知識 6. 第3章 刺鍼の方式と術式 7. 第4章 特殊鍼法 8. 第5章 灸の基礎知識 9. 第6章 灸術の種類 10. 第7章 鍼灸の臨床応用 11. 第8章 リスク管理 リスク管理の基本 12. 鍼療法の過誤と副作用 13. 灸療法の過誤と副作用 14. 感染症対策 15. 試験解説および総復習	
【テキスト】 テキスト:「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 資料 :授業中の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験により評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、配布資料の通読を基本とする。授業内容を理解するにあたり、神経生理学的知識をはじめ基礎的な医学知識が必要となる為、知識に乏しい者はその都度該当教科の復習を要する。			

講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅱ(東洋医学臨床論<スポーツ臨床>)	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前後期
【学科】専科【講師名】湯浅陽介・仙田昌子・横田篤広・谷直樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 スポーツ選手やスポーツ愛好家のニーズに応え遭遇しやすい疾患に対応できる知識を学ぶ。 老年者の特性、鍼灸の治療的アプローチを学ぶ。 当該領域の国家試験問題への対応を理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 スポーツにおける外傷と障害を理解し、鍼灸治療の適応、不適応を判断できる。 各スポーツ傷害に対し、採用すべき適切な鑑別法を知り応用できる。 老年者の特性を理解し、適切な態度をとれる。 老年者に安全に鍼灸治療を行うための知識を身につける。 当該領域の国家試験問題に対応できるようになる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説① 仙田	1 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説① 横田	2 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説② 仙田	2 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説② 横田
2 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説② 仙田	3 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説③ 仙田	3 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説③ 仙田	3 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説③ 横田
3 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説③ 仙田	4 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説④ 仙田	4 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説④ 仙田	4 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説④ 横田
4 専門・専門基礎分野のスポーツ関連模試と解説④ 仙田	5 スポーツにおける「は・き」治療(総論) 湯浅	5 東洋医学とスポーツ①	5 東洋医学とスポーツ① 横田
5 スポーツにおける「は・き」治療(総論) 湯浅	6 スポーツ外傷の応急処置、物理療法 湯浅	6 東洋医学とスポーツ②	6 東洋医学とスポーツ② 横田
6 スポーツ外傷の応急処置、物理療法 湯浅	7 ストレッチングとトレーニング 湯浅	7 東洋医学とスポーツ③	7 東洋医学とスポーツ③ 横田
7 ストレッチングとトレーニング 湯浅	8 肩関節の解剖 湯浅	8 東洋医学とスポーツ④	8 東洋医学とスポーツ④ 横田
8 肩関節の解剖 湯浅	9 運動性肩関節痛 湯浅	9 東洋医学とスポーツ⑤	9 東洋医学とスポーツ⑤ 横田
9 運動性肩関節痛 湯浅	10 肘関節の解剖 湯浅	10 総復習	10 総復習 谷
10 肘関節の解剖 湯浅	11 運動性肘関節痛 湯浅	11 試験解説と復習	11 試験解説と復習 谷
11 運動性肘関節痛 湯浅	12 腰部の解剖 湯浅		
12 腰部の解剖 湯浅	13 運動性腰痛 湯浅		
13 運動性腰痛 湯浅	14 膝関節の解剖 湯浅		
14 膝関節の解剖 湯浅	15 運動性膝関節痛 湯浅		
15 運動性膝関節痛 湯浅	16 下肢の解剖運動性、下肢痛 湯浅		
16 下肢の解剖運動性、下肢痛 湯浅	17 足関節、足部の解剖、運動性足関節痛 湯浅		
17 足関節、足部の解剖、運動性足関節痛 湯浅	18 老年医学 湯浅		
18 老年医学 湯浅	19 試験解説および総復習 湯浅		
19 試験解説および総復習 湯浅			
【テキスト】 テキスト:「東洋医学臨床論<はりきゅう篇>」教科書執筆小委員会編 (医道の日本社) 「東洋医学臨床論<あん摩マッサージ指圧篇>」教科書執筆小委員会編 (医道の日本社) 授業時の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書とプリントの通読を基本とする。 身体各部の筋、骨、関節、経穴および各種徒手検査法の知識修得を前提として授業を進めるので、知識の乏しい者は予復習を要する。			

講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅱ(東洋医学臨床論<現代>)		【分野】専門		【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】高山 智仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 临床上遭遇しやすい症候・疾病に対して、診察の結果をもとに、鍼灸の適応となる疾患を導き出し、その疾患に対しての対処・治療法を学ぶ。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼灸師が行える診察の結果から、治療の適不適について判断できるようになる。 患者の主訴に対してのアプローチとして、西洋医学的診断法の知見を利用するとともに、治療法の組み立てが出来るようになる。最終的には治療法の選定が出来るようになり、実践で使える治療法が身につく。					
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1. 治療総論 治療原則 治療計画 2. 頭痛① 3. 頭痛② 4. 顔面痛① 5. 顔面痛② 6. 顔面麻痺① 7. 顔面麻痺② 歯痛 8. 眼精疲労 脱毛症 9. 鼻汁 鼻閉 10. めまい 11. 耳鳴りと難聴 12. 咳嗽 13. 喘息 14. 胸痛 15. 試験解説および総復習			1. 腹痛 2. 悪心と嘔吐 3. 便秘と下痢 4. 月経異常 5. 排尿障害 6. インポテンツ 7. 高血圧 低血圧 8. 食欲不振 9. 肥満 10. 発熱 11. のぼせと冷え 12. 不眠 疲労と倦怠 13. 発疹 小児の症状 14. 総復習 15. 試験解説および総復習		
【テキスト】 テキスト:「東洋医学臨床論 はりきゅう編」(教科書執筆小委員会編) その他:適時、必要に応じてプリントを配布する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書およびプリントの通読を基本とする。 基礎医学に対する知識が必要となる為、知識に乏しいものはあらかじめ予習しておくこと。					

講義要綱

【授業科目名】臨床学Ⅱ(東洋医学臨床論[中医学])		【分野】専門		【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】横田篤広	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 临床上遭遇しやすい症候・疾病に対して、弁証に基づき証を導き出し、その証に対しての対処・治療法を学ぶ。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 主訴と四診(望聞問切)により得られた情報から弁証に基づき証を導くことができる。 証より治法が導き出せ、治法より配穴処方が導き出せられる。 主訴部位から局所配穴処方・循経配穴処方ができる。 +					
【 授 業 計 画 】					
< 前 期 >			< 後 期 >		
1 治療原則			1 腹痛①		
2 頭痛①			2 腹痛②		
3 頭痛②			3 悪心・嘔吐・乾嘔		
4 顔面痛			4 食欲不振		
5 顔面麻痺			5 便秘・下痢		
6 歯痛			6 産婦人科疾患①		
7 眼精疲労			7 産婦人科疾患②		
8 鼻閉・鼻汁			8 インポテンツ		
9 脱毛			9 排尿異常		
10 めまい			10 発熱		
11 耳鳴り・難聴			11 のぼせと冷え		
12 咳嗽			12 不眠		
13 喘息			13 肥満		
14 胸脇痛			14 発疹		
15 試験解説および総復習			15 試験解説および総復習		
【テキスト】 テキスト:「東洋医学臨床論<東洋医学的な考え方> サブテキスト」(東京医療福祉専門学校) 授業時の配布プリント					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 臨床学は様々な知識が必要なので、1年次の「東洋医学概論」「経絡経穴概論」、2年次の「中医学概論」の知識が乏しいものは復習を行い授業に臨んで欲しい。					

講義要綱

【授業科目名】社会学	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】松村天裕	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会において現状と課題を知り、これに対応できる総合的能力と知識をを確認しながら、鍼灸師としての役割について自覚することを学ぶ。 ・ 障害の原因である疾患等の特徴を踏まえ、障害者を取り巻く問題点の解決策を考える。 ・ 鍼灸師が出来るリハビリテーションアプローチを考える。 			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションアプローチの概要を理解する。 ・ 障害者等の疾患や状態に対して適切な対処法を行うことができる。 ・ アプローチに付随した社会保険制度を理解する。 ・ 社会が求める鍼灸師の役割と知識に対して総合実力試験で自分の習得度を測ることが出来る。 			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管疾患について 2. 脳血管疾患のリハビリ ① 3. 脳血管疾患のリハビリ ② 4. 鍼灸師における脳血管疾患 5. 総合実力試験とその解説 6. 総合実力試験とその解説 		<ol style="list-style-type: none"> 1. パーキンソン病とリハビリについて 2. 鍼灸師におけるパーキンソン病 3. 脊髄損傷とリハビリについて① 4. 脊髄損傷とリハビリについて② 5. 鍼灸師における脊髄損傷 6. 切断とリハビリについて 7. 鍼灸師における切断 8. 小児疾患とリハビリについて 9. 鍼灸師における小児疾患 10. 呼吸器疾患とリハビリについて 11. 鍼灸師における呼吸器疾患 12. 骨関節疾患とリハビリについて① 13. 骨関節疾患とリハビリについて② 14. 骨関節疾患とリハビリについて③ 15. 試験解説と総復習 16. 鍼灸師における骨関節疾患 17. 心疾患とリハビリについて 18. 鍼灸師における心疾患 19. 高齢者の特徴 20. 社会保険の基礎 21. あはき業務と療養費① 22. あはき業務と療養費② 23. リハビリと医療保険 24. リハビリと介護保険 	
【テキスト】			
テキスト:「リハビリテーション医学 第3版」東洋療法学校協会編（医歯薬出版） その他:必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
特になし			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅰ(はり実技Ⅲ:パルス)	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】鈴木 稔子	【授業コマ数】35	【授業時間数】70
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 鍼通電療法を臨床に応用できる能力と態度を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼灸臨床において遭遇しやすい症候について、病態を推察出来る。 臨床所見から罹患部位を推察し、鍼通電療法を実施出来る。 鍼通電療法を用いた一連の流れについて理解し、適切な方法・態度で実施出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 筋に対する鍼通電(薄筋)	2. 筋に対する鍼通電(縫工筋)	3. 筋に対する鍼通電(腓骨筋)	4. 筋に対する鍼通電(棘下筋)
5. 筋に対する鍼通電(後脛骨筋)	6. 筋に対する鍼通電(腰方形筋)	7. 筋に対する鍼通電(頭板状筋)	8. 筋に対する鍼通電(肩甲挙筋)
9. 筋に対する鍼通電(総指伸筋)	10. 総復習	11. 試験前実技練習	12. 実技試験①と練習
13. 実技試験②と練習	14. 実技試験③と練習	15. 実技試験総評および総復習	16. 和鍼の治療実技①
			17. 和鍼の治療実技②
			18. 鍼灸治療と手技療法とのコラボレーション
			19. 現代鍼灸治療の実際
			20. 枇杷葉温灸療法
			21. 小児の外傷
【テキスト】 テキスト:「鍼通電療法テクニック」大島宣雄、山口真二郎著 (医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は実技室を使用し、白衣着用の事。指サック持参。 実習を行う際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅲ(臨床実習Ⅱ)	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】殿村・芳野・鈴木	【授業コマ数】23	【授業時間数】45
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 患者に対する臨床実践を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、並びに治療法(現代医学的鍼灸治療、経絡的治療法、中医学)を理解し、実践できる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 < 態度・習慣 > 自己の問題点を抽出し、解決することが出来る。また患者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築くことが出来る。 < 情報収集 > 1) 面接所見をもとに、患者の抱える問題点に対する身体診察法を実践できる。 2) 四診法により、患者を東洋医学的観点から捉えることが出来る。 3) 患者の抱える問題点に対する治療の適否を判断し、治療計画を立案することが出来る。 < 治療へのアプローチ > 1) 治療に際し患者からインフォームド・コンセントを得ることが出来る。 2) 安全性、消毒・清潔操作に配慮し、治療することが出来る。 3) 治療効果を判定することが出来る。 4) 治療中のアクシデントに適切に対応することが出来る。 5) 治療計画に基づき、治療穴および治療部位を触知出来る。 6) 治療計画に基づいた、刺鍼・施灸することが出来る。 < 診療録作成・症例検討 > 1) 診療録をSOAP形式で記載できる。 2) 症例検討することが出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >			
1. ガイダンス 2. 治療法ガイダンス(現代医学的鍼灸治療) 3. 治療法ガイダンス(中医学①) 4. 治療法ガイダンス(中医学②) 5. 治療法ガイダンス(中医学③) 6. 模擬実習(現代医学的鍼灸治療の診察から治療の初診から再診までの一連の流れを練習する) 7. 模擬実習(①経絡的治療の四診から治療の初診から再診までの一連の流れを練習する) 8. 模擬実習(②経絡的治療の四診から治療の初診から再診までの一連の流れを練習する) 9. 模擬実習(中医学の治療法の初診から再診までの一連の流れを見学する) 10. 実習(中医学の治療法を患者として受け、また治療の一連の流れを見学する。) 11. 実習(中医学の治療法を患者として受け、また治療の一連の流れを見学する。) 実習(経絡的治療を患者として受け、また治療の一連の流れを見学し並びに学生同士で実践する。ならびに実際の患者に対し指導教官のもと治療を行う。) 12. 実習(経絡的治療を患者として受け、また治療の一連の流れを見学し並びに学生同士で実践する。ならびに実際の患者に対し指導教官のもと治療を行う。) 13. 実習(現代医学的鍼灸治療において、受付対応を含め治療の一連の流れを行い、また教員による医療面接評価を受けて臨床能力の向上に務める。) 14. 実習(現代医学的鍼灸治療において、受付対応を含め治療の一連の流れを行い、また教員による医療面接評価を受けて臨床能力の向上に務める。) 15. 実習(先にうけた教員の医療面接評価をもとに、ふたたび受付対応を含め治療の一連の流れを行い臨床能力の向上を図る。) 16. 実習(先にうけた教員の医療面接評価をもとに、ふたたび受付対応を含め治療の一連の流れを行い臨床能力の向上を図る。) 17. 実習(現代医学的鍼灸治療を外来患者に対し実際に出来るようにする。) 18. 実習(現代医学的鍼灸治療を外来患者に対し実際に出来るようにする。) 19. 現代医学的鍼灸治療・総括(症例報告書の書き方について) 20. 経絡的治療・総括(症例報告書の書き方について) 21. 中医学・総括(症例報告書の書き方について) 22. 臨床実習・全体総括			
【テキスト】 「問診・診察ハンドブック」(出端昭男 医道の日本社)、「中医鍼灸学総論」(浅川要 東京医療福祉専門学校)、 「日本鍼灸医学<経絡治療・基礎編>」(経絡治療学会編纂) 配布資料:「臨床実習実施要領」、「臨床実習マニュアル」			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、三つの治療方法のうち一つだけ症例報告書を提出し、他の二つについては学期末に筆記試験でそれぞれ評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 ガイダンスおよびまとめは教室で、模擬実習は実習室、実習は臨床実習室で実施。 実習は班により実施、また授業の実施の日程など予め掲示するので確認しておくこと。 模擬実習並びに実習においては白衣着用、筆記用具、角度計・打腱器、ピンセット、灸点ペンなどを忘れないこと。 テキスト・配布資料の内容を熟知し実習に支障のないように注意すること。			

講義要綱

【授業科目名】実習Ⅳ(臨床応用実技)	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】北爪 秀幸	【授業コマ数】35	【授業時間数】70
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 鍼灸の基本技術を土台に、より臨床的な観点から疾患ごとの具体的な治療方法を習得する。 また患者に施術を行っているとき、緊急措置が必要な状況を生じることを踏まえて心肺蘇生法について学ぶ			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・木下晴都式の基本手技(交叉刺・傍神経刺など)を理解し、適切かつ安全に施術に活かすことができる。 ・各疾患の鑑別要件など、臨床治療を進めていくために必要な知識を説明することができる。 ・1回の施術の実践的な治療計画を立て、それに基づく刺鍼施灸を効果的に行なうことができる。 ・心肺蘇生法が行なえる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 木下晴都の鍼灸治療	2. 頭痛の治療①	3. 頭痛の治療②	4. 三叉神経痛の治療①
5. 三叉神経痛の治療②	6. 頸腕痛の治療①	7. 頸腕痛の治療②	8. 難聴・耳鳴りの治療①
9. 難聴・耳鳴りの治療②	10. 鼻閉・鼻漏の治療①	11. 鼻閉・鼻漏の治療②	12. 実技試験①と練習
13. 実技試験②と練習	14. 実技試験の総評	15. 救命講習会(心肺蘇生法含む)①	16. 救命講習会(心肺蘇生法含む)②
17. 救命講習会(心肺蘇生法含む)③			
		1. 花粉症・アトピー性皮膚炎の治療①	2. 花粉症・アトピー性皮膚炎の治療②
		3. 血圧異常の治療	4. 過敏性腸症候群の治療①
		5. 過敏性腸症候群の治療②	6. 甲状腺機能障害の治療①
		7. 甲状腺機能障害の治療②	8. 総合実力試験①と練習
		9. 総合実力試験②と練習	10. 総合実力試験③と練習
		11. 睡眠障害の治療①	12. 睡眠障害の治療②
		13. 糖尿病の治療	14. その他の疾患の治療
		15. 実技試験①と練習	16. 実技試験②と練習
		17. 実技試験の総評	18. 鍼灸診察法
【テキストなど】 テキスト: なし その他: 授業では主にプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対して実技試験を行ない評価する。			
【授業実施上の留意点】 ・原則として、セイリン製ディスプレイブルステンレス鍼を使用するので、各自持参のこと。 ・クリーンフィンギング(指サック)を各自持参して使用し、安全な治療実習に留意すること。			

講義要綱

【授業科目名】治療学Ⅵ(リハビリテーション実技)		【分野】専門	【学年】3年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】北爪 秀幸	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1
【一般目標:GIO】 鍼灸師に必要なリハビリテーション技術のうち、関節可動域測定(ROM-T)や徒手筋力テスト(MMT)、杖歩行基本的な解除動作などに着目し、理解・実施できるようにする。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・ROM-T、MMTが正しく測定できる。 ・基本的な介助動作を行なえるようになるとともに、各種福祉用具の使い方を理解する。				
【 授 業 計 画 】				
<前 期>		<後 期>		
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス・関節可動域測定の総論 2. 関節可動域測定(ROM-T)① 3. 関節可動域測定(ROM-T)② 4. 関節可動域測定(ROM-T)③ 5. 徒手筋力テスト(MMT)の総論 6. 徒手筋力テスト(MMT)① 7. 徒手筋力テスト(MMT)② 8. 徒手筋力テスト(MMT)③ 9. 徒手筋力テスト(MMT)④ 10. 徒手筋力テスト(MMT)⑤ 11. 杖歩行 12. 実技試験①と練習 13. 実技試験②と練習 14. 実技試験総評と練習 15. 手のケア 		
【テキストなど】 テキスト:「リハビリテーション医学」東洋療法学校協会編(医歯薬出版) その他:授業ではプリントを併用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験を行ない評価する。				
【授業実施上の留意点】 実技室使用、白衣着用。関節可動域測定の授業では角度計使用。				

講義要綱

【授業科目名】総合学習	【分野】専門	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】高山、芳野、手島	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 社会に対し施術者として関わりを持つうえで、その基盤となるものは当然現代医学と東洋医学の知識である。そこで、この中で最も必要と考えられる専門分野の科目を中心に総合的に学び、これを社会や患者が求める様々な事象に対し適応できることを習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・東洋医学や現代医学に関する情報を第三者に説明することができる。 ・患者に対してのインフォームドコンセントに役立てることが出来る。 ・患者が求める情報に対して的確にこたえることが出来る。 ・3年間で学んだ施術者としての必要な知識を再確認し、確実に履修していることが確認できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 解剖学①	高山	1 総合実力試験①と解説	芳野
2 解剖学②	高山	2 総合実力試験②と解説	芳野
3 解剖学③	高山	3 総合実力試験③と解説	芳野
4 解剖学④	高山	4 総合実力試験④と解説	芳野
5 総合実力確認模試①と解説	芳野	5 総合実力確認模試③と解説	芳野
6 総合実力確認模試②と解説	芳野	6 総合実力確認模試④と解説	芳野
		7 総合実力確認模試⑤と解説	芳野
		8 総合実力確認模試⑥と解説	芳野
		9 リハビリテーション医学①	松村
		10 リハビリテーション医学②	松村
		11 病理学①	北爪
		12 病理学②	北爪
		13 リハビリテーション医学③	松村
		14 リハビリテーション医学④	松村
		15 生理学①	手島
		16 生理学②	手島
		17 生理学③	手島
		18 生理学④	手島
		19 生理学⑤	手島
		20 生理学⑥	手島
		21 生理学⑦	手島
		22 生理学⑧	手島
		23 解剖学⑤	高山
		24 解剖学⑥	高山
【テキスト】 テキスト:なし 授業時の配布プリントを使用			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者で、総合実力試験の結果を評価とする。			
【授業実施上の留意点】 授業中にマークシートを利用する場合もあるので、鉛筆・消しゴムを持参すること。			